

シスターメリー 徳永

ノートルダム教育修道女会の創立者マザーテレジア・ゲルハルディングの「イエスの内に」の言葉に特に励まされています。神様の呼びかけに応え、イエス様と共に生き、イエス様の心を大切に生きた創立者マザーテレジアの召命の道、その後続く小さな私もマザーの娘として、日々奉獻生活を生き、イエス様との交わりを深めていくことができることを感謝しています。そして、祈りのうちに共同生活することを通して、日々イエス様が一緒にいてくださることを体験しています。

これまでで心に残っている事は、修練長のシスターメリーキャサリンの言葉です。イエス様の十字架に合わせて、特に御ミサの聖変化の時、またご聖体拝領の時「どうぞ私の奉獻をお受け取



りください。と祈りなさい。」といわれました。シスターは私にたくさんのことを教えてくださいました。特に福音的清貧の精神をシスターの生き方を通して教えてくださいました。今もその言葉を繰り返し祈っています。そして、私は小さな貧しい者ですが、イエス様が受け入れてくださっているから、今ここにいます。そのことを神様と会員、お一人おひとりに感謝して過ごしています。

ノートルダム教育修道女会の創立185年、日本ミッション70年を祝う、今この時、神様の恵みによって私は今、共同体のメンバーと共に幼児教育の使徒職の場で、全ての被造物と共に神様を賛美することができることを感謝しています。全てのことの中で出会う神様のことを子ども達に伝え、子ども達とイエス様との友情を深め、世界の平和のためにマリア様に取次ぎを願って祈っています。

(初誓願 1990)

シスターヨハネ マリア 國分

「この先、辛いことや困難なことに出会ったら、今3人で見ているこの桜を思い出しなさい。」「祈りの人になりなさい。そうすれば、何も怖くありません。」この2つの言葉は、私の指導者であったシスターキャサリン皆福の言葉です。初めの言葉は、入会直後、同期生の福本さんと私を哲学の道に連れて行ってくれた時、満開の桜を見ながら言われました。修道生活を歩み始めたばかりの私たちに「ずっと導くから、どん



な時も支えるから、3人で絆を大切に頑張らましよう！」と言われたようで、とても嬉しく思ったことを覚えています。2つ目の言葉は、終生誓願直前の私に言われました。私はシスターの祈る姿を9年間、そばで見えておりました。祈りはシスターキャサリンそのものでした。シスターが確信をもって言われたこの言葉は、その時から私の心の支えとなり続け、私を日常の折々に、祈りへと向かわせています。私の人としてやSSNDとしての成長を助けたのは、上記のシスターキャサリンの温かい愛に満ちた言葉、力ある真理の言葉でした。

(初誓願 1992)

シスターマリア ドミニカ 仙頭

坂の上のあの校舎は桜が満開でした。桜が散り、新緑の季節になると、坂を上って来たため汗ばんだ体が、小川から立ち上るひんやりとした空気ですうーっと気持ちよくなるのでした。

傷つき、凍りつき、ぼろぼろになっていた少女の心は、坂の上の校舎に通いはじめた時、生まれ変わりました。制服、教室、友だち、先生、行事、全部好きになりました。

もうひとつ、もっと好きなものがありました。それはシスターたちでした。校長先生、副校長先生、教科の先生、事務室の方、色々なところにいました。校舎のとなりに、もうひとつ建物があるようで、シスターたちは朝そこから出て、夕方にそこへ帰って行くようでした。



あそこへ、行きたい。なぜ？あそこに、何かがあるから。あそこに、何かがある？あそこには温度がある。癒しがある。いのちがある。それまでに一度もあじわったことのない何かがある。私も、あそこへ行く。少女は決めました。15歳でした。

年月がたち、今はもうあの校舎にも、となりの建物にも、シスターはいなくなりました。時代は変わっても、あの少女の心が受け取ったイエスキリストの温かさ、癒し、いのちを、少女と同じように必要としている人が世界中にいるようです。それを今日、ほんの少しでも、誰かといっしょにあじわえたらと願いつつ生かされています。

ノートルダム教育修道女会宣教70周年おめでとうございます。

(初誓願 2002)

シスターメリー ルチア 大城



私がノートルダムへの入会を決意するにあたって、大きな影響を受けたのは、「100歳の美しい脳」という本です。召命黙想会に通っていた私は、教育とは無関係の仕事、介護職をしていたため、教育を使徒職としているSSNDへの入会を躊躇していました。そのような時、偶然に大阪の図書館でこの本を手に入りました。

この本がSSNDのシスター方のことが書かれていると知った時の驚きと喜び、また、シスター方の献身する姿に感銘を受け、特に本の中に書かれているSリタ・シュワツピの言葉「私達の修道会は、貧しい人、弱い人とともに活動するために作られました。

アルツハイマー病を患っている人ほど、弱い人がいるでしょうか。」に勇気付けられて、入会へと至りました。

それから8年後これらのことを思い出さなくなった頃、マンケイトでSリタが霊的指導を10ヶ月間して下さいました。ある日、このSリタがあの本のSリタだと気づいた時、神様の恵みと導き、神様とシスター方への感謝を強く感じました。

(初誓願 2016)

シスターグレース マリー 中井



70周年の年、私は初誓願を宣立する恵みを頂きました。これは私にとって大きな意味があったと思っています。なぜなら、私もシスター方と共に新たな出発の第一歩を踏み出すことが出来たからです。この恵みを心から感謝致します。

私が入会した翌年、日本地区はCP管区に入り、またその翌年、全世界の修練院がローマ本会修練院に一本化するという発表があり、会としてまた日本SSNDとして大きな転換期をシスター方とともに体験しました。

私は国際修練院の第1期生としてローマで修練し、7カ国からなる異文化共同体という将来のSSNDの縮図とも言える体験をする機会を頂き、それは、互いの文化を理解し共に生きることや言語など多くのチャレンジと識別を通して、SSNDになるための貴重な準備期間でありました。

私にとってこの体験は、これから会が変化し発展していく中で必要かつ大切なことを学び、また

霊的に深める機会であったのと同時にSSNDのカリスマである「多様性の一致」を生きるための、まさに中軸となっております。

これからますます変化する中、福者マザーテレジアとその精神を生きてこられたシスター方が大切にされた事を継承しつつ、神の大きな招きにオープンであり続けることへの恵みを願い祈り、シスター方と共に歩んで参りたいと思います。

(初誓願 2018)



小竹藪町修道院
Kotakeyabu-cho Convent